

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/11

各種材料から米金融政策の方向性を探る

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	やや米悲観論に反応しやすい? 予想レンジ: 79.50 ~ 82.20 円	2 - 3
カナダ/円	➡	米景気減速懸念がカナダ/円の重しに 予想レンジ: 81.70 ~ 85.20 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 7/4~8の主な推移

※4時間足



7/4 Monday	東京市場序盤から欧州市場序盤、格付け会社S & Pが「ギリシャ債の借り換え(ロールオーバー)は選択的デフォルトに当たる公算が大きい」との見解を示したことで、ユーロ/円が下落すると、ドル/円は80.53円まで連れ安となった(①)。ただし、欧州株が堅調に推移する中でクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円等)が反発すると、ドル/円も下げ幅を縮小した。
7/5 Tuesday	朝方、ドイツ連邦憲法裁判所が「ギリシャ支援にドイツが参加することについて反対する訴訟」の審問を開始する、との一部報道がユーロ売り要因、米国の本国投資法(HIA)第2弾についての思惑や、米製薬大手ファイザーの対外資産引き上げに絡む思惑がドル買い要因となり、ユーロ/ドルで大幅にドル高が進むと、ドル/円もドル買い優勢となり、81円台乗せを達成(②)。しかし、81.20円目前で上値が重く、その後は80.98~81.19円でのみみ合いとなった。
7/6 Wednesday	朝から81円台での上値の重さが意識される中、本邦輸出企業によるドル売りが入ると、ドル/円は80.81円まで値を下げた。欧州勢がポンド売りで参入し、ポンド/円が値を下げると、ドル/円は80.79円まで連れ安となったが、欧州債務不安が再燃し、対ユーロでドル高が大きく進むと、ドル/円でもドル買いが優勢となり、81.09円まで値を戻した。しかしその後、時間外のNYダウ先物が軟化した上、中国政府が「地方政府の債務規模は大きく、多大な注意を払う必要がある」などとの見解を示すと、再び円高が進行。さらに23時発表の米6月ISM非製造業景況指数が53.3と市場予想(53.7)よりも弱い結果だったことを受け、ドル/円は80.75円まで下落した(③)。
7/7 Thursday	21時15分に発表された米6月全国雇用者数は15.7万人増と、市場予想(7.0万人増)を上回ったことで、発表直後のドル/円相場は81.41円まで急速に上昇した(④)。21時30分に発表された米新規失業保険申請件数は41.8万件とほぼ市場予想(42.0万件)通りの結果になると、ドル/円はもみ合うも方向感はず。その後、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁の会見にて向こう数月以内の追加利上げが示唆されると、対ユーロでドル安が進み、これに連れてドル/円もジリジリと上げ幅を縮小した。
7/8 Friday	東京市場から欧州市場中盤にかけては、21時30分発表の米6月雇用統計の好結果を期待してジリジリとドル高が進み、81.47円の高値をつけた。しかし、発表された米6月雇用統計は失業率が9.2%(市場予想:9.1%)、非農業部門雇用者数は1.8万人増(同:10.5万人増)と、市場予想よりも大幅に悪い結果となった。これを受け、発表直後のドル/円は急落し、80.50円の安値をつけた(⑤)。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週の米国は、手掛かり材料が非常に多い。主要な経済指標の発表予定だけみても、12日に5月貿易収支、13日に6月月次財政収支、14日に6月生産者物価指数、6月小売売上高、週次の新規失業保険申請件数、15日には6月消費者物価指数、7月ニューヨーク連銀製造業景気指数、6月鉱工業生産、7月シガン大消費者信頼感指数・速報値と、数が多い。さらに、12日には米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録の発表、13日および14日には米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の議会証言なども予定されている上、米国債入札(12日:3年債、13日:10年債、14日:30年債)や、米主要企業の決算発表などもある。

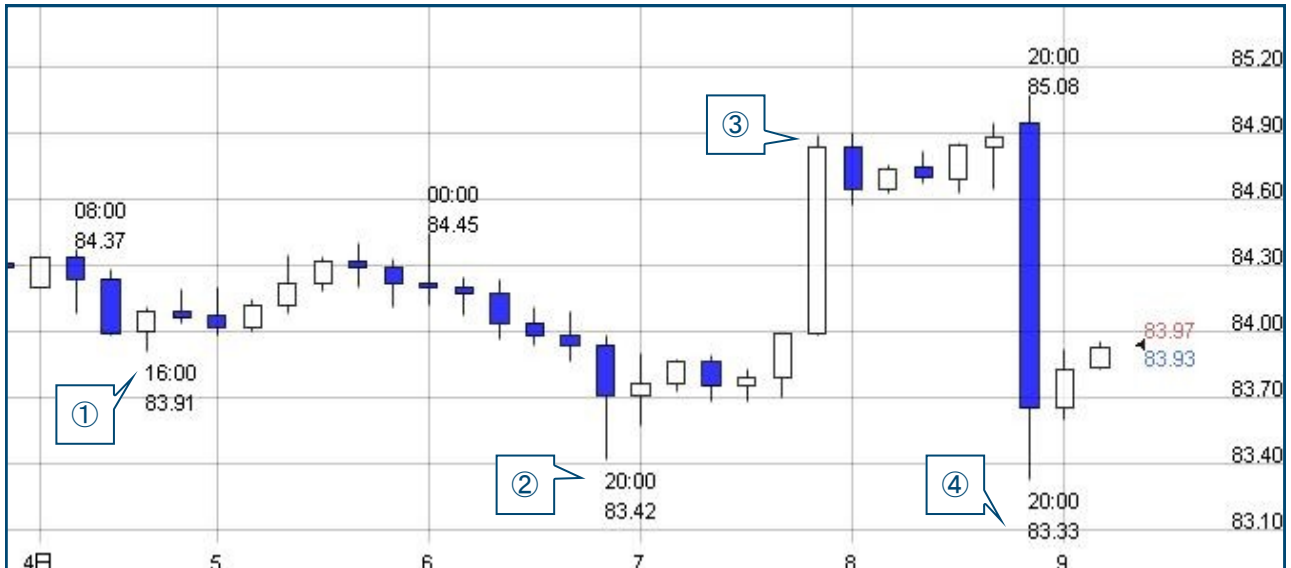
これら各種経済イベントから、今週の金融市場は今後の米金融政策の方向感を図っていく流れになるだろう。先週末の米雇用統計が予想よりも大幅に弱い内容だったことから、どちらかと言えば、当面は量的緩和第3弾を睨みながら、米経済の弱さを示す材料(=ドル売り要因)により神経質に反応する可能性がある。もっとも、ドル/円相場については5月から相場の下値を支えている79円台半ばでは底堅く推移しそうだ。

この他、波乱要因として、引き続きユーロの動向にも注目したい。週末以降、ギリシャの債務再編の可能性が強く意識されており、関連報道などを背景にユーロが対円および対ドルで大きく動く局面では、ドル/円相場も連れて乱高下するかもしれない。(ジェルベズ)

(予想レンジ:79.50~82.20円)

CAD/JPY

カナダ/円 7/4~8の主な推移



7/4 Monday	格付け会社S&Pが、仏銀が提案したギリシャ債のロールオーバー計画について、ギリシャを選択的デフォルト(債務不履行)に追い込む可能性があるとの見解を示した事が嫌気され、欧州株が一時マイナス圏に転落すると、リスク回避の動きが強まりカナダ/円は83.91円まで下落した。(①)
7/6 Wednesday	国際スワップデリバティブ協会(ISDA)が「(アイルランドの金融会社である)アイリッシュ・ライフ債にCDSの決済を引き起こす可能性がある信用事由が発生した」と発表した事や、独政府当局者が「ドイツはいったん取り下げていたギリシャ債のスワップ案の復活を望む」と述べた事から、欧州債務不安が再燃する形で欧州株が軟調に推移した。また、中国当局が0.25%の利上げを発表した事を受けて、中国の経済成長ペースの鈍化により資源需要が減退するとの見方から原油価格が下落した事もあって、カナダ/円は83.42円の安値を付けた。(②)
7/7 Thursday	米6月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数の良好な結果を受けて、8日の米6月雇用統計への改善期待が高まるとNYダウ平均株価一時100ドル超の上昇となった。また、米国景気の先行き不透明感がやや後退したとして、原油価格が2ドル超の上昇となった事もあって、カナダ/円は84.90円まで大きく上昇した。(③)
7/8 Friday	加6月雇用統計は失業率は7.4%と予想通りとなったが、雇用ネット変化が2.84万人増と予想(1.50万人増)を上回った事が好感され、85.08円の高値を付けた。しかし、その後発表された米6月雇用統計が失業率9.2%、非農業部門雇用者数1.8万人増と大幅に弱い結果となると、米景気の先行き懸念から時間外のNYダウ先物が急落。原油価格も大きく下落すると、カナダ/円は83.33円の安値まで急落した。(④)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は83.33円～85.08円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.3%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。8日に発表された加6月雇用統計は良好な結果となり、カナダ/円は週初来高値を付けたものの、同日発表された米6月雇用統計の悪化を受けて週初来安値に沈んだ。このように、カナダ経済と米国経済との結びつきの強さから、米国の景気減速懸念が強まる場面では、カナダドルにも下落圧力がかかりやすい。今週は、14日に米6月小売売上高、15日に米6月鉱工業生産と米国景気を見るうえでの重要な経済指標が発表される。また、13日と14日に米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が議会証言を行う。6月7日の同議長の講演では、足元の米国景気の減速を一時的なものとして、量的緩和第3弾(QE3)の導入についての踏み込んだ発言は見られなかった。これを受けてNYダウ平均株価が下落に転じると、カナダ/円も下落する事になった。今回の議会証言でも、QE3導入に関する前向きな発言がなければ、株価や資源価格が下落する可能性があり、カナダ/円にも下落リスクがあると言えそうだ。

その他、欧州では債務懸念がイタリアにも拡大しつつあり、11日のユーロ圏財務相会合、12日の欧州連合(EU)財務相理事会、15日の欧州ストレステスト(健全性審査)などの結果を受けた主要国の株価動向にも注意しておきたい。(神田)

(予想レンジ:81.70～85.20円)

経済指標カレンダー (7/11~14)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/11 (月)	21:15		日銀金融政策決定会合(～12日) (加) 6月住宅着工件数	— 18.36万件	— 18.15万件
7/12 (火)	15:00	○	(日) 日銀金融政策決定会合(11日～発表) (独) 6月消費者物価指数・確報 [前月比] (独) 6月消費者物価指数・確報 [前年比]	0.00-0.10% +0.1% +2.3%	— +0.1% +2.3%
	17:30	◎	(英) 6月消費者物価指数 [前月比]	+0.2%	+0.3%
		◎	(英) 6月消費者物価指数 [前年比]	+4.5%	+4.5%
	17:30		(英) 6月小売物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.3%
	17:30		(英) 5月商品貿易収支	-73.89億GBP	-74.50億GBP
	21:30	○	(米) 5月貿易収支	-437億USD	-442億USD
	21:30		(加) 5月国際商品貿易	-9億CAD	-7億CAD
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) FOMC議事録(6月21・22日分)	—	—
7/13 (水)	11:00	○	(中) 6月鉱工業生産[前年比]	+13.3%	+13.1%
	11:00	◎	(中) 第2四半期実質GDP[前期比]	+2.1%	—
	11:00	◎	(中) 第2四半期実質GDP[前年比]	+9.7%	+9.3%
	11:00	○	(中) 6月小売売上高[前年比]	+16.9%	+17.0%
	13:30		(日) 5月鉱工業生産・確報 [前月比] (日) 5月鉱工業生産・確報 [前年比]	+5.7% -5.9%	— —
	14:00		(日) 7月金融経済月報・基本的見解	—	—
	17:30	○	(英) 6月失業率	4.6%	4.7%
	17:30	○	(英) 6月失業保険申請件数	+1.96万件	+1.50万件
	18:00	○	(ユーロ圏) 5月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	21:30		(米) 6月輸入物価指数 [前月比]	+0.2%	-0.8%
	26:00	○	(米) 10年債入札(210億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 6月月次財政収支	-576億USD	-650億USD
7/14 (木)	07:45	◎	(NZ) 第1四半期GDP [前期比]	+0.2%	+0.3%
		◎	(NZ) 第1四半期GDP [前年比]	+0.8%	+0.5%
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月消費者物価指数・確報 [前月比] (ユーロ圏) 6月消費者物価指数・確報 [前年比]	±0.0% +2.7%	±0.0% —
	21:30	○	(米) 6月生産者物価指数 [前月比]	+0.2%	-0.2%
		○	(米) 6月生産者物価指数 [コア:前月比]	+0.2%	+0.2%
		○	(米) 6月生産者物価指数 [前年比]	+7.3%	+7.4%
		○	(米) 6月生産者物価指数 [コア:前年比]	+2.1%	+2.2%
	21:30	◎	(米) 6月小売売上高 [前月比]	-0.2%	±0.0%
		◎	(米) 6月小売売上高 [前月比:除自動車]	+0.3%	+0.1%
	21:30	◎	(米) 7/8までの週の新規失業保険申請件数	41.8万件	—
	23:00		(米) 5月企業在庫 [前月比]	+0.8%	+0.6%
	26:00	○	(米) 30年債入札(130億ドル)	—	—

経済指標カレンダー (7/15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/15	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (6月13日・14日分)	—	—
(金)	18:00		(ユーロ圏) 5月貿易収支	-41億EUR	—
	21:30	◎	(米) 6月消費者物価指数 [前月比]	+0.2%	-0.1%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [コア: 前月比]	+0.3%	+0.2%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [前年比]	+3.6%	+3.6%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [コア: 前年比]	+1.5%	+1.6%
	21:30	○	(米) 7月ニューヨーク連銀製造業景気指数	-7.79	4.0
	22:15	◎	(米) 6月鉱工業生産 [前月比]	+0.1%	+0.4%
	22:15		(米) 6月設備稼働率	76.7%	77.0%
	22:55	◎	(米) 7月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	71.5	72.5

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com